

第13回 『女性史学賞』公募要項

・推薦対象

日本語で書かれ、女性史・ジェンダー史的考察に基づく、日本を始めとする世界各地で公刊された著書・編著・訳書を対象とします。歴史学のみならず、文学・社会学・文化人類学・民俗学等の分野のものも対象とします。高い完成度とともに、今後の進展が期待できる著作を望みます。候補作の決定の場合にこれまでの業績も勘案します。著者・编者・訳者の年齢・性別・国籍は問いません。

・期間

2016年4月1日～2018年3月31日の2年間に発表された単行本

・推薦方法

送付した推薦書をスキャンして頂きメール添付、ファックス、郵送のいずれかで事務局宛に送ってください。また、推薦書は奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センターのホームページからダウンロード可能です。

ホームページ <http://koto.nara-wu.ac.jp/gender/index.html>

・締切

2017年6月30日(土) 必着

・表彰

賞状ならびに副賞10万円

受賞者には記念講演及びセンター発行雑誌『アジア・ジェンダー文化学研究』への寄稿をお願いいたします。

・授賞式 2019年1月12日(土) 奈良女子大学にて行う予定です。

・選考委員 岸本美緒、姫岡とし子、成田龍一、武田佐知子、鈴木則子

事務局：〒630-8506 奈良市北魚屋東町

奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター

『女性史学賞』選考委員会事務局

電話番号：0742-20-3611

E-mail：a-gender.c@cc.nara-wu.ac.jp

＝これまでの授賞者と授賞作＝

第1回 2006年

- ・金富子氏『植民地期朝鮮の教育とジェンダー－就学・不就学をめぐる権力関係－』（世織書房）

第2回 2007年

- ・内藤千珠子氏『帝国と暗殺－ジェンダーからみる近代日本のメディア編成－』（新曜社）
- ・山崎明子氏『近代日本の「手芸」とジェンダー』（世織書房）

第3回 2008年

- ・京楽真帆子氏『平安京都市社会史の研究』（塙書房）
- ・押山美知子氏『少女マンガ ジェンダー表象論－〈男装の少女〉の造形とアイデンティティ－』（彩流社）

第4回 2009年

- ・木村朗子氏『恋する物語のホモセクシュアリティ－宮廷社会と権力－』（青土社）
『乳房はだれのものか－日本中世物語にみる性と権力－』（新曜社）

第5回 2010年

- ・本賞 清家章氏『古墳時代の埋葬原理と親族構造』（大阪大学出版会）
- ・特別賞 アンヌ ブッシイ氏『神と人のはざまに生きる－近代都市の女性巫者－』（東京大学出版会）

第6回 2011年

- ・磯山久美子氏『断髪する女たち－1920年代のスペイン社会とモダンガール』（新宿書房）
- ・小野沢あかね氏『近代日本社会と公娼制度－民衆史と国際関係史の視点から』（吉川弘文館）

第7回 2012年

- ・内田雅克氏『大日本帝国の「少年」と「男性性」－少年少女雑誌に見る「ウィークネス・フォビア」』（明石書店）
- ・姚毅氏『近代中国の出産と国家・社会－医師・助産師・接生婆－』（研文出版）

第8回 2013年

- ・宮西香穂里氏『沖縄軍人妻の研究』（京都大学学術出版会）

第9回 2014年

- ・澤田佳世氏『戦後沖縄の生殖をめぐるポリティクス－米軍統治下の出生力転換と女たちの交渉－』（大月書店）
- ・松原宏之氏『虫喰う近代－1910年代社会衛生運動とアメリカの政治文化－』（ナカニシヤ出版）

第10回 2015年

- ・土田陽子氏『公立高等女学校にみるジェンダー秩序と階層構造－学校・生徒・メディアのダイナミズム－』（ミネルヴァ書房）
- ・嶺崎寛子氏『イスラーム復興とジェンダー－現代エジプト社会を生きる女性たち－』（昭和堂）

第11回 2016年

- ・遠藤みどり氏『日本古代の女帝と譲位』（塙書房）
- ・辻智子氏『繊維女性労働者の生活記録運動－1950年代サークル運動と若者たちの自己形成』（北海道大学出版会）

第12回 2017年

- ・辻浩和氏『中世の〈遊女〉－生業と身分－』（京都大学学術出版会）